

廣報

東京大学理学部

結 び 目

1	3	11	14	15	16	20	21	22	24	37
41	43	48	49	51	52	58	60	61	62	65
66	67	68	71	74	76	77	78	79	80	81
101	102	104	105	106	107	108	117	119	120	121
122	2	4	5	6	7	8	9	10	12	13
17	18	19	23	25	26	27	28	29	30	31
32	33	34	35	36	38	39	40	42	44	45
46	47	50	53	54	55	56	57	59	63	64
69	70	72	73	75	82	83	84	85	86	87
88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98
99	100	103	109	110	111	112	113	114	115	116
118	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132
		11	111	1111	11111	111111	1111111	11111111	211	2111
133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143
21V	2V	2VI	2VII	2VIII	2IX	3I	3II	3III	3IV	3V
144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154
3VI	3VII	3VIII	3IX	3X	4I	4II	4III	4IV	4V	4VI
155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165
4VII	4VIII	5I	5II	5I	6II	6III	6IV	6V	6VI	6VIII

目 次

火の玉は炭素質コンドライトだったのか?.....増田 彰正..... 2

<学部消息>..... 3

結 び 目 (表紙の説明)

3次元ユークリッド空間の中の、自分自身と交わらない閉じた曲線を結び目といいます。主に滑らかな結び目を考えるのが普通です。ひとつの結び目を平面上の図で描くと、どうしても曲線が上下に立体交差している所(2重点)を描かなくてはならないのが普通ですが、そのような2重点を出来るだけ少なくなるように描いたときの2重点の個数を、その結び目の交叉数と呼ぶことにします。

表紙の図は、交叉数が10であるような“素な”結び目を全部分類した表です。御覧のように165個あります。ただし、“素な”結び目とは、次のように定義されます。ひとつの“ひも”の上にひとつの結び目 K_1 をつくり、同じひもの上で、いま作った結び目のとなりに別の結び目 K_2 をつくり、全体として“ひとつの”結び目と考えたとき、それを K_1 と K_2 の合成と呼びます。合成になっていない結び目が“素な”結び目です。

結び目の分類は、前世紀後半にP. G. Tait氏(物理学者)及びC. N. Little氏により大きな表(交叉数11以下)が作られました。彼等の方法は“経験的”で、重複や遺漏がありました。(とくにLittle氏のもの。)

表紙の図は、K. A. Perko氏によって発表されたもので、その後約100年間の進歩によってなしとげられた理論的に完全な表です。1974年のことです。現在は交叉数11以下のものが数えられていてその数は550個であろうと推定されています。

結び目の分類はキリのない仕事ですが、このような結び目が存在するという数学的事実が、3次元、4次元の多様体論を難しいものにしていくわけで、数学の世界も理論的に美しい世界ばかりが広がっているのではないことがわかります。

(図は、Proc. A. M. S. 45(1974) pp 265~266より。結び目の番号は、123番まではTait氏の表の番号づけ。)

(松本 幸夫)

火の玉は炭素質コンドライトだったか？

増田 彰 正 (化学)

私は、東京理科大学で初めて教壇に立つようになった。講義の中で隕石のことについてふれた後で、「もしも君達の家庭に隕石が落ちたらいち早くこっそりと私の所に届けて下さい。」とつけ加えることにした。学生数が多いので、依頼と宣伝をかねてこのようなことをいっておくのには好都合な機会であるかもしれないと考えたからである。しかし、それが機縁になって新しい隕石を手できるなどと大真面目に考えていたわけではなく、それは講義の中の息抜きの効果をねらった、むしろ冗談の一種でもあった。

ある時、一人の学生が私の部屋をノックした。全く面識のない学生であった。彼は「私の村に隕石を持っている人がいます。」と、思いもかけぬ朗報を私に告げたのである。その学生は群馬県甘楽(かんら)郡から通学している聴講生であることが分ったが、何れ近い中に現地の村で会うことを約して別れた。私は、その「隕石」に甘楽隕石という仮称を与えることにした。(隕石の命名は原則として、落下した、あるいは、発見された場所の地名によることになっている。しかし、最近の南極隕石のように一ヶ所に多量の隕石が発見される事態が生じたため、命名法について新たな問題が生じた。)

私は日記をつける習慣を持たないので、何年の何月何日であったか定かでないが、かねての計画に従って期待に胸をはずませて現地に赴いたのは七月頃だったろうか。研究所所属の学部学生や大学院生も同行し、途中で西瓜を買ったのを覚えている。現地の事情に詳しい学生も先で合流し、件の隕石を所有している村人に会わせてくれた。そして、落下を目撃した当時の状況などをきくことができた。

二人の村人が小さい山の頂上近くに腰を下して作業の合間の休憩を取っていた時のことであったという。えも言えぬ七色の(?)光に輝いた火の玉が飛んで来て、あっとかたずをのむ間にオレンジ色に光を変えながら直ぐ真向いの山の杉の木立の中に姿を消すのを目撃した。(当日、ほぼ同じ時刻にその村の小学校の校庭で遊んでいた子供達の中にも火の玉の飛来を見たものがいたとのことである。)二人は、これと目星をつけた地点にかけつけたが、それらしいものを回収することはできなかった。あいにく、その夜は強い雨。翌日も二人は仕事を止めて火の玉を探したが、収穫なし。しかし、この世のものとは思われぬ火の玉を目の当りに見た二人はその瞬時の光景を忘れることが出来ず、「火の玉」を拾ってやろうという気持は募るばかりであった。農作業を時々休んでは山の中を採しまわる二人の行動は村の人達から奇異の目で見られるようになり、「宝物を探しているらしい」という評判が村中に広がった。同時に、我こそは宝物を……という人が日増しに増えて、ついには、村中総出の組織的な火の玉探しにまで発展した。火の玉の正体ではないかというものがいくつ回収されたが、情況証拠から考えて最もそれらしいものの一部分が目撃者の一人の家に保存されているという話を聞いて胸おどるものがあった。神棚の奥から出して見せてくれたその物体は私の興味をいやが上にもかき立てた。その外観は黒っぽくて、もろく、フランスに落下したOrgueil隕石という大変貴重な炭素質コンドライトによく似ていたからである。

隕石は化学組成、鉱物学的組成と構造等によりいくつかは大別されるが。その中でも最も未分化、隕石はコンドライト隕石である。しかし、これ

にもいくつかのグループがあって、岩素質コンドライトは、さらに細かく分類され、I、II、III、(あるいはIV)のタイプに分けられる。これらの炭素質コンドライトのタイプの中でも最も始原的なのがタイプIで、前述のOrgueil隕石はこれに属する。炭素質コンドライトの特徴の一つは、名前の通り炭素の含有量が高い(0.5~3.6%)点であるが、水の含有量も際立って高い。無論、炭素のみならず、様々な有機物(アミノ酸等も含む)が検出されており、化学進化との関連においても興味を持たれている。とにかく、これらの有機物は45億5千万年前に原始太陽系星雲の中で形成されたものである。アミノ酸について一言つけ加えると、炭素質コンドライト中のアミノ酸はD型とL型とがほぼ等量で、光学活性を示さない。(化学や生物学の関係者にはよく知られている常識だが、生体タンパク質のアミノ酸は光学活性体である。)

とにかく三拝九拝して、“甘楽隕石”を少し分けてもらい研究室に持ち帰った。研究室でその灼熱減量を測定した所、タイプIの炭素質コンドライトとしても異常に高い値となった。さらに、そ

の灰分について希土類元素を定量した結果は、この物質はコンドライトではなく、地球(多分、地球の表層)に起源を持つ物質であることを裏づけた。すなわち、回収された物質は幻の甘楽隕石であったとするのが常識的な結論であろう。

私は試料の提供者に研究の結果を知らせることを約束して山を降りたのであったが、どのような返事を書くべきか当惑せざるを得なかった。提供者の夢を冷酷にこわしたくないという気持を払い切れなかったからである。私自身、一億分の一くらいの確率でもこれが地球外の物質であるかもしれないと思いたかったからかもしれない。

七年前、私は東京理科大学から神戸大学に移ることになった。短い間にせよ、私をわくわくさせた甘楽隕石の思い出はその当時の様々な思い出につながっていたので他の試料と共に神戸に送ることにした。今後神戸大学から東京大学に転任して来るための整理をしながら、この試料をどうしようかと考えた。もう捨ててしまおうかとも思ったが結局そのまままた持って来ることにした。山の天狗がカンラカンラと笑っているかもしれない。

<学部消息>

教 授 会 メ モ

5月20日(水) 定例教授会

理学部4号館 1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 昭和56年度受託研究員の受入れについて
(4) 寄附の受入れについて
(5) 人事委員会報告
(6) その他

6月17日(水) 定例教授会

理学部4号館 1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 学生の留学について
(4) 人事委員会報告
(5) 会計委員会報告
(6) 教務委員会報告
(7) 植物園運営委員会規則の一部改正について
(8) その他

(次回予定：7月15日(水) 午後1時30分より)

昭和56年度科学研究費補助金配分内定一覽

研究種目	理 学 部		東京大学 (理学部を含む)	
	内定件数	配分予定額	内定件数	配分予定額
がん特別研究(1)	2	20,950 ^(千円)	18	317,150 ^(千円)
がん特別研究(2)			13	51,300
自然災害特別研究(1)	2	30,800	7	88,500
自然災害特別研究(2)			1	1,900
環境科学特別研究(1)	2	16,500	23	316,800
環境科学特別研究(2)			1	1,600
エネルギー特別研究(1) (エネルギー)			18	215,600
エネルギー特別研究(2) (エネルギー)			11	24,400
エネルギー特別研究(1) (核融合)			5	71,500
エネルギー特別研究(2) (核融合)	1	13,200	5	30,100
特 定 研 究 (1)	1 1	188,500	84	1,203,500
特 定 研 究 (2)	1 1	24,300	40	96,700
総 合 研 究 (A)	継続 9 新規 6	35,800 23,700	99	369,930
総 合 研 究 (B)	6	13,900	15	37,700
一 般 研 究 (A)	継続 1 1	43,200	72	594,800
一 般 研 究 (B)	継続 9 新規 6	14,100 34,900	208	616,200
一 般 研 究 (C)	継続 5 新規 3 7	4,200 53,350	307	405,390
奨 励 研 究 (A)	2 3	19,120	168	135,900
試 験 研 究 (1)			23	114,530
試 験 研 究 (2)	継続 3 新規 6	7,400 27,300	110	323,490
海外学術調査 (現地調査)	2	25,400	6	75,300
海外学術調査 (調査総括)	2	3,600		
合 計	1 5 4	600,220	1,234	5,092,290

東京大学理学部 属諸室貸付規程

(目 的)

第1条 理学部附属の諸室（以下「諸室」という。）は、理学部において差支えないと認めた場合に、東京大学が定めた「学部附属の諸室、会議所又は学生控所貸付規程」によるほか、この規程の定めるところにより貸付することができる。

(申込手続)

第2条 諸室を借受けようとする者は、所要事項を記載した理学部諸室使用許可願を、あらかじめ理学部長に提出しなければならない。この場合において、理学部教授又は助教授の署名捺印による紹介及び当該諸室の属する号館の長若しくは教室主任の承諾印が必要である。

(許 可)

第3条 使用の許可は理学部長が裁定する。

2 使用の許可を受けた者は、別に定める使用料を経理部に納付して、許可証の交付を受けるものとする。

(使用日時)

第4条 諸室の使用日時は官庁の執務時間内とする。

ただし、特に理学部長が必要と認めた場合には、日曜日及び休日を含め、若しくは午後9時までとすることができる。

(許可条件)

第5条 諸室の使用許可を受けた者及びその紹介者は、その使用中に生じた事項について一切の責任を負うとともに、次に掲げる事項を実行しなければならない。

(1) 諸室の使用中に異常事態が生じた場合は、適切な処置をとるとともに、速やかに理学部長及び事務長に会合の名称、日時及び場所、参加者の概数、異常な状況及び処置その他参考となる事項を報告すること。

(2) 火気の取扱いには特に注意し、火気を使用した後は消火を確認すること。

(事 務)

第6条 諸室貸付の事務は、理学部庶務掛が行う。

附 則

1. この規程は、昭和56年6月17日から施行する。
2. 理学部会議室使用内規（昭和29年12月12日決定）は廃止する。

「理学部附属諸室貸付規程」第3条に規定
する「別に定める」使用料について

(理学部長裁定 昭和56年6月17日)

標記について、下記のとおり定める。

記

使用料は、次の使用料算定基準により各室ごとに算定し、10円未満の端数が生じた場合は、10円に切り上げて、時間数を乗じたものとする。

1. 木造建物 1㎡1時間当り 2円
2. 木造以外の建物 1㎡1時間当り 3円

(以上)

諸室使用料基準

(昭和51年11月10日現在)

号館名	室名	室面積	1時間当り 使用料	
1号館	150号室	129㎡	390円	
〃	350号室	129	390	
〃	347号室	65	200	
〃	340号室	40	120	
〃	344号室	39	120	
〃	158号室	53	160	
2号館	講堂	298	900	
4号館	1220	215	650	
化学新館	1404	84	260	
〃	講堂	237	720	

毎月1日は

「省エネルギー」

の日です。

理学部諸室使用許可願

昭和 年 月 日

東京大学理学部長 殿

使用室の 教室主任又は
号館長承諾印 ㊟

教授 ㊟
紹介 助教授

主催者名

所在地

電話 ()

代表者氏名

㊟

住所

電話 ()

下記のとおり使用したいので、ご許可願います。

記

会 合 の 名 称	
会 合 の 目 的	
講 演 者 及 び 演 題 等	
使 用 日 時	昭和 年 月 日 () 時 ~ 時
使 用 室 名	
参加者の種類及び人数	
入場料等の徴収の有無	有 無

● 泥棒がねらっている (盗難注意)

本郷構内は泥棒天国といわれています。いたるところで泥棒 (盗難) の被害にあっています。あなたのちょっとした注意で被害をくいとめられます。

理学部諸室使用許可証

殿

下記のとおり使用を許可する。

昭和 年 月 日

東京大学理学部長

会 合 の 名 称	
会 合 の 目 的	
講 演 者 及 び 演 題 等	
使 用 日 時	昭和 年 月 日 () 時～ 時
使 用 室 名	
参加者の種類及び人数	
入場料等の徴収の有無	有 無

注意事項

1. この会合が願い出の事項に反したときは許可を取り消し、または中止させることがある。
2. 許可後においても公務上の必要が生じたときは、その許可を取り消すことがある。
3. 許可を受けた者は、使用の際これを係員に提示すること。
4. 許可を受けた者は、使用中参加者の不法行為によって、建物又は備品等にき損を与えた場合、弁償責任を負わなければならない。
5. その他、公序良俗に反する行為をしてはならない。

理学部附属諸室貸付規程の運用について

問 「理学部附属諸室」とはすべての部屋を含むのか。特別に定められた部屋のみを指す（例えば、理2号館講堂）のかが不明。

答 貸付可能な全ての部屋を含むものである。

2問 「使用の目的」がどの範囲までを指すのかがあいまい。例えば、当教室の講義室、演習室で当教室教官が主催し、他大学研究機関の研究者と行う科研費の打合せ、研究会、学会関係の事務連絡会、当教室学生が主催し他大学の学生の参加する研究会、ゼミなどの会合はこの規定にしばられるのか。

答 「使用目的」は、東京大学の規程に掲げる

(イ) 学術研究会、学術講演会その他公益の為に開催する会合。

(ロ) 本学教職員、卒業生、学生生徒諸種の会合。

の範囲で許可するものである。

“例え”の教室教官が主催（又は共催）するものは、貸付に該当しないが、看板等で掲示し国以外の者が主催する会合の場合は、該当することになる。

3問 教室で使用できる部屋の貸付に関しては従来通り教室の判断にまかすのか。

答 教室主任の承諾印をうけて理学部長が許可するもので、教室の判断を尊重することは従来どおりである。

4問 教室に所属していない部屋に関しては、（例えば、2号館講堂）従来通り建物の責任者（2号館長）の承認を待って許可を与えてほしい。

答 そのとおりである。

5問 規則を充実することによって、大学が閉鎖的になっていかないよう留意していただきたい。

答 規則が整備されることにより、正規の手続きが必要となるが、貸付を制限するための規程ではない。貸付規程がないため、貸付出来なかった例もある。

6問 各教室の諸室などは、本来の研究教育に差支えない限り各教室の判断で、小研究会や学会などの小集会につかえることが望ましい。

答 教室の判断をうけて正規の手続きにより、その使用を許可するものである。なお、本学部教官又は学生を部外者が訪問して面談もしくは会合し、研究連絡等を行うため各教室の諸室を一時使用することは、貸付に該当しないものである。

(以上)

人 事 異 動

所属 地 物	官職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
	助 手	尹 宗 煥	56. 3. 16	復 職	
地物研	助 手	飯 島 健	56. 3. 16	助教授に昇任	
物 理	助教授	二 宮 敏 行	56. 3. 16	教授に昇任	
生 化	助 手	高 橋 征 三	56. 3. 31	辞 職	
物 理	助 手	日 向 裕 幸	56. 3. 31	辞 職	
植 物	助 手	石 津 純 一	56. 3. 31	辞 職	
物 理	助 手	坂 西 明 郎	56. 4. 1	国立循環器病センター転任	
化 学	助 手	相 馬 悠 子	56. 4. 1	国立公害研究所転任	
地 質		村 田 明 広	56. 4. 1	助手に採用	
動 物		岡 良 隆	56. 4. 1	助手に採用	
化 学		正 田 晋一郎	56. 4. 1	助手に採用	
物 理		押 山 淳	56. 4. 1	助手に採用	
物 理		宮 下 精 二	56. 4. 1	助手に採用	
数 学		岡 本 久	56. 4. 1	助手に採用	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
数 学		枅 田 幹 也	56. 4. 1	助手に採用	
数 学		橋 本 喜 一 朗	56. 4. 1	助手に採用	
地 質	助 手	福 山 博 之	56. 4. 1	復 職	
地 質	助 手	浦 辺 徹 郎	56. 4. 1	復 職	
物 理	助 手	渡 裕	56. 4. 1	休 職	昭 56.4.1~57.3.31
地 質	助 手	藤 井 敏 嗣	56. 4. 1	休 職	昭 56.4.1~56.8.31
地 質	助 手	河 村 雄 行	56. 4. 1	休 職	昭 56.4.1~58.3.31
動 物	助教授	山 上 健 次 郎	56. 3. 31	辞 職	上智大教授
動 物	助 手	佐 藤 真 彦	56. 4. 1	講師昇任	
地 質	助 手	豊 原 富 士 夫	56. 4. 1	熊本大理学部講師昇任	
物 理	助 手	佐 藤 光	56. 4. 1	兵庫教育大助教昇任	
物 理	助 手	田 中 文 彦	56. 4. 1	東京農工大工学部 助教授昇任	
数 学	助 手	伊 吹 山 知 義	56. 4. 1	九州大教養学部助教授昇任	
数 学	助 手	岡 本 和 夫	56. 4. 1	一橋大社会学部助教授昇任	
人 類	助 手	丹 野 正	56. 4. 1	弘前大人文学部助教授昇任	
鉱 物		床 次 正 安	56. 4. 1	教授に昇任	大阪大産業科学研 助教授
数 学	助教授	藤 原 大 輔	56. 4. 1	東京工業大理学部教授昇任	
化 学	助教授	原 田 一 誠	56. 4. 1	東北大学薬学部教授昇任	
生 化	助教授	森 田 茂 廣	56. 4. 1	東京農工大農学部教授昇任	
地 物	助教授	河 野 長	56. 4. 1	東工大理学部教授昇任	
動 物	助教授	川 島 誠 一 郎	56. 4. 1	広島大理学部教授昇任	
化 学	教 授	藤 原 鎮 男	56. 4. 2	停年退官	
物 理	教 授	霜 田 光 一	56. 4. 2	停年退官	
物 理	教 授	乘 原 五 郎	56. 4. 2	停年退官	
地 物	教 授	竹 内 均	56. 4. 2	停年退官	
鉱 物	教 授	定 永 両 一	56. 4. 2	停年退官	
植 物 園	教 授	山 崎 敬	56. 4. 2	停年退官	
化 学		増 田 彰 正	56. 5. 16	教授に配置換	神戸大学理学部教授
物 理	助 手	高 田 康 民	56. 5. 29	休 職	昭 56.5.29~ 57.5.28
生 化	助 手	福 田 昭 男	56. 5. 31	辞 職	
化 学	化	清 水 洋	56. 6. 1	助手に転任	神戸大理・助手
生 化		西 田 栄 介	56. 6. 1	助手に採用	
物 理		白 木 原 康 雄	56. 6. 16	助手に採用	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理		江橋節郎	56. 4. 1	教授に併任	本務：東大医教授
素粒子		武田 暁	56. 4. 1	教授に併任	本務：東北大理教授
植物園		岩槻邦男	56. 4. 1	教授に併任	本務：京大理教授
素粒子		高橋史彦	56. 5. 1	助教授に併任	本務：高工研助教授
素粒子		藤川和男	56. 5. 1	助教授に併任	本務：東大核研助教授
素粒子		菅原寛孝	56. 6. 1	教授に併任	本務：高工研教授
物理	講師	若林健之	56. 6. 16	助教授に併任	
化学	用務員	高橋劉介	56. 4. 1	辞職	
物理		五斗由美子	56. 4. 1	事務官に採用	
事務		三浦弘三	56. 4. 1	事務官に採用	
情報		池田俊春	56. 4. 1	技官に採用	
物理	事務官	岩佐真理子	56. 4. 1	配置換	医学部から
事務	事務官	山口泰教	56. 4. 1	配置換	学生部から
事務	学務主任	瀧澤龍夫	56. 4. 1	学生部厚生課課長 課長補佐に昇任	
事務	事務官	佐々野善昭	56. 4. 1	アイソトープ総合センター 庶務掛主任に昇任	
事務	事務長補佐 (総務担当)	神戸和雄	56. 4. 1	昇任	庶後主任から
事務	事務長補佐 (経理担当)	福井保男	56. 4. 1		
事務	学務主任	三浦俊暁	56. 4. 1	配置換	庶務部学務課
事務	経理掛長	伊藤誠一	56. 4. 14	宇宙科学研究所 出納掛長に転任	
事務	経理掛長	小嶋壮介	56. 4. 14	転任	高エネルギー研 研究 協力第一係長
事務	人事掛主任	鈴木利次	56. 4. 16	大学入試センター 人事係長に転任	
情報	事務官	平井一則	56. 5. 1	配置換	庶務部から
事務	事務官	飯澤隆夫	56. 5. 1	配置換	情報から

外国人客員研究員

所属	国籍	氏名	現職	研究期間
数学	アメリカ	韓良信	アメリカ ニューメキシコ大学準教授	56. 3. 1 ?) 57. 1. 31
物理	中国	庚鎮城	上海復旦大学 遺伝学研究所 教授	期間延長 56. 4. 1 ?) 56. 10. 30
物理	アメリカ	Richard A. Ferrell	メリーランド大学教授	56. 4. 19 ?) 56. 8. 4

所属	国籍	氏名	現職	研究期間
物理	アメリカ	Gordon A. Thomas	ベル研究所研究員	5 6. 5. 2 6
				5 6. 8. 1 3
地質	アメリカ	Raymond Siever	ハーバード大学教授	5 6. 8. 2 0
				5 6. 1 0. 3 1
物理	アメリカ	Jonathan L. Rosner	ミネソタ大学物理教授	5 6. 5. 1 5
				5 6. 7. 1
地質	フランス	Jacques Roux	フランス科学研究院研究員	5 6. 5. 1 0
				5 6. 2. 9
数学	アメリカ	Kenneth A. Ribet	カリフォルニア大学助教授	5 6. 9. 1
				5 6. 1 0. 2 0
数学	カナダ	Robert V. Moody	サスカチュワン大学教授	5 6. 9. 1 5
				5 6. 1 2. 1 5
動物	イタリア	Vitaliano Pallini	シエナ大学教授	5 6. 7. 1 5
				5 6. 9. 1 0
物理	アメリカ	Chen Ning Yang	ニューヨーク州立大学教授	5 6. 5. 2 5
				5 6. 6. 2 5

所属	国籍籍	氏名	現職	研究期間	備考
物理	インド	J. MAHARANA	ブバネスワル物理学研究所助教授	5 6. 6. 2 5	帰国外国人留学生短期研究制度研究者
				5 6. 9. 2 5	
化学	中華人民共和国	李慶水	厦門大学化学学部講師	5 6. 6. 1 7	中国政府派遣研究員
				5 7. 3. 3 1	
地物	同上	銭志春	電力工業部華東勘测設計院技師	同上	同上

永年勤続者表彰

5 6. 4. 1 1

上田 芳文
伊藤 誠一
森脇 博子

海 外 渡 航 者

所 属 官 職	氏 名	渡航先国	渡航期間	渡 航 目 的
物 理 助 教 授	長 澤 信 方	フランス	3.15~3.31	固体における励起状態と非線形多光子共鳴過程に関する国際会議出席及び光学物性物理学に関する研究交流のため
物 理 助 教 授	一 丸 節 夫	アメリカ合衆国	3.18~4. 3	量子液体に関する研究会出席及びプラズマ物理学に関する研究のため
鉱 物 教 授	竹 内 慶 夫	アメリカ合衆国	3. 1~3.12	国際回折データセンター標準粉末回折像協議会年会, 評議会出席及びX線結晶学に関する研究調査のため
地 物 助 教 授	齊 藤 正 徳	アメリカ合衆国	3.20~3.31	理論地震記象研究会出席及び研究打合
物 理 教 授	鈴 木 秀 次	アメリカ合衆国	3.22~3.29	体心立方金属の機械的性質の特質セミナー出席のため
物 理 教 授	植 村 泰 忠	中華人民共和国	3. 6~3.20	半導体物理学の研究のため
天 文 助 教 授	小 平 桂 一	カナダ アメリカ合衆国 ドイツ連邦共和国	3.15~3.31	「銀河の定量解析」の研究, ヨーロッパ南天天文台国際研究集会出席のため
植 物 教 授	古 谷 雅 樹	アメリカ合衆国	3.18~4. 5	緑色細胞におけるフィトクロムの分析と分子的性質の研究のため
鉱 物 助 教 授	武 田 弘	アメリカ合衆国	3.14~3.22	第12回月・惑星科学会議, 国際隕石学会評議員会出席及び鉱物に関する研究連絡のため
地 理 講 師	米 倉 伸 之	アメリカ合衆国	3.28~4.12	島弧-海溝系における地震性地殻変動の比較研究のため
地 物 助 教	松 野 太 郎	アメリカ合衆国	3.22~4.12	大規模山岳系の気象大循環に及ぼす影響に関する共同研究のため
化 学 教 授	不 破 敬 一 郎	アメリカ合衆国	3.16~3.31	メタロチオオネンの生物学的機能セミナー本会議出席及び無機分析化学の研究連絡のため
地 物 助 手	松 井 孝 典	アメリカ合衆国	3.13~4. 2	第12回月・惑星科学会議出席及び惑星学に関する研究のため
素粒子 助 教 授	折 戸 周 治	ドイツ連邦共和国 スイス	3.23~4.14	e e 実験に関する将来計画の打合せのため
地物研 助 教 授	小 川 利 紘	カナダ	3.23~4. 5	オゾン観測データ検討会議出席のため
地 理 助 教 授	小 堀 巖	中華人民共和国	3.28~4.12	乾燥地域地理学の研究実施のため
植物園 助 手	邑 田 仁	中華人民共和国	3.28~4. 6	植物分類学の資料収集のため
化 学 助 手	渡 辺 裕	アメリカ合衆国	4. 1~ ^{5.7.} _{3.31}	有機合成化学に関する研究のため
物 理 教 授	小 柴 昌 俊	スイス, ポルトガル フランス, 連合王国, ドイツ連邦共和国	4.7~9.19	国際協同実験-陰・陽電子衝突実験打合せ並にヨーロッパ物理学会, 第17回宇宙線国際学会及び1981年レプトン・フォトン国際学会出席のため
地 質 助 手	河 村 雄 行	フランス	4.1~5.8.3.31	鉱物学の研究のため
数 学 助 手	川 又 雄 二 郎	アメリカ合衆国	4.12~5.19	代数幾可学の研究・交流のため

所属官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
情報教授	国井利泰	アメリカ合衆国	4. 6~4.28	コンピュータ・アーキテクチャ並びにデータベースシステムの共同研究のため
地質教授	久城育夫	アメリカ合衆国 カナダ	4. 2~4.21	チャップマン会議出席及び岩石学に関する研究連絡のため
化学教授	向山光昭	アメリカ合衆国 カナダ	4.18~5. 8	有機合成に関する研究のため
物理教授	有馬朗人	中華人民共和国	4. 4~4.25	原子核理論の研究のため
情報教授	山田尚勇	オーストラリア	4.20~5.22	オートマトン理論の共同研究及び第4回オーストラリアコンピュータサイエンス学会出席のため
数学教授	木村俊房	フランス	4.28~5.31	微分方程式の研究のため
情報助教授	前川守	アメリカ合衆国	4.24~5.16	'81年ナショナルコンピュータ会議及び第8回コンピュータアーキテクチャ会議出席のため
化学教授	不破敬一郎	シンガポール	4.25~5. 3	第1回アジア・太平洋化学会議出席のため
数学教授	岩堀長慶	台湾	4.28~5. 7	代数学の研究交流のため
物理教授	山崎敏光	カナダ	4.26~5. 2	TRIUMF研究所長期計画委員会出席のため
物理助教授	鈴木増雄	スイス, イタリア ベルギー	5. 7~6. 4	乱れた系と局在化に関する国際会議出席及び統計力学に関する研究連絡のため
物理助手	高田康民	アメリカ合衆国	5.29~57.5.28	物性物理学に関する研究のため
情報助手	坂村健	アメリカ合衆国	5. 3~5. 7	米国計算機学会出席のため
情報教授	米田信夫	オランダ	5. 8~5.20	国際情報処理連合2.1作業部会第28回会合, 算法言語シンポジウムプログラム委員会出席及び研究交換のため
地質助手	浦辺徹郎	カナダ	5. 9~5.15	カナダ地質・鉱物学会年会出席のため
地物教授	佐藤良輔	中華人民共和国	5.27~6.16	中国における地震予知の現状及び唐山被災地・断層の視察のため
化学教授	田隅三生	アメリカ合衆国	5.31~6.18	簡便な入力形式により巨大分子の分子振動数を計算するプログラム・パッケージの開発に関する共同研究実施のため
化学助手	竹内英夫	アメリカ合衆国	5.31~6.18	簡便な入力形式により巨大分子の分子振動数を計算するプログラム・パッケージの開発に関する共同研究実施のため
物理教授	有馬朗人	オーストラリア	5.10~5.19	原子核理論の研究のため
化学助手	吉藤正明	アメリカ合衆国	5.31~6.13	リン化学に関する国際会議出席及び有機化学に関する研究連絡のため
地物研助教授	小川利紘	アメリカ合衆国 ベルギー, インド	5.16~6.12	NASA成層圏ワークショップ出席及び共同観測打合せのため
物理教授	藤井忠男	アメリカ合衆国	5.21~5.31	第3回日米高エネルギー物理学委員会出席のため

所属官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
数学 助教授	岡部 靖 憲	ソビエト連邦	6.20~6.29	確率論と数理統計に関する第3回ヴェルニウスコンフェランス出席のため
物理 講師	三須 明	アメリカ合衆国	6.21~8.31	第15回炭素に関する隔年会議出席及び光物性学に関する研究のため
素粒子 助教授	折戸 周 治	ドイツ連邦共和国 スイス	6.10~8.18	国際協同実験—電子・陽電子衝突実験及びシャワーカウンターのテストのため
地物研 教授	福島 直	連合王国, ノルウェー, チェコスロバキア, ソビエト連邦	6.1~6.15	地球電磁気学・超高層大気物理学に関する国際学術総会開催準備打合せ及び地球磁気学に関する研究連絡のため
物理 助教授	清水 忠 雄	カナダ	6.27~7.6	第5回レーザー分光学国際会議出席のため
物理 助教授	遠山 潤 志	アメリカ合衆国 アルゼンチン	6.1~57.3.31	トカマク実験による核融合研究及びプラズマ物理に関する資料収集のため
素粒子 助手	駒宮 幸 男	ドイツ連邦共和国	6.13~8.21	国際共同実験 J A D E に参加するため
物理 助教授	中井 浩 二	デンマーク, フランス, ドイツ連邦共和国, スイス	6.7~7.12	高エネルギー原子核相互作用の研究及び第9回高エネルギー物理と原子核構造国際会議出席のため
物理 教授	宮本 健 郎	アメリカ合衆国	6.20~6.28	定常閉じ込めに関する物理と工学; トカマクとその支援概念についてのゴードン会議出席のため
地質 助教授	島崎 英 彦	大韓民国	6.3~7.12	韓国オクチョン地帯の塩基性岩の化学組成と地質構造の研究のため
物理 助教授	矢島 紘 一	スイス, フランス	6.20~9.20	原子核理論に関する協同研究及び第9回高エネルギー物理学と原子核構造国際会議出席のため
物理 講師	若林 健 之	アメリカ合衆国	6.26~7.10	ゴードン研究会議出席及び物理学に関する研究連絡のため
地理 講師	米倉 伸 之	バヌアツ, アメリカ合衆国, 北マリアナ諸島	6.5~7.3	島弧—海溝系における地震性地殻変動の研究実施のため
化学 教授	大木 道 則	アメリカ合衆国	6.21~7.5	配座解析国際会議出席及び有機化学に関する研究連絡のため
地物 助手	浜野 洋 三	ペルー, ボリビア, チリ, アメリカ合衆国	6.30~9.11	中部アンデスの地球物理学的調査のため
物理 教授	有馬 朗 人	アメリカ合衆国	6.13~6.27	ゴードン会議出席並びに電子およびパイ中間子と原子核との相互作用に関する共同研究のため
化学 助教授	露木 孝 彦	フランス	6.27~7.5	世界民間ユネスコ協会クラブ連盟設立総会出席のため
数学 教授	岩堀 長 慶	シンガポール フィリピン	6.7~6.18	シンガポール国際数学会議出席及び数学研究上の諸問題についての連絡協議のため
化学 教授	向山 光 昭	アメリカ合衆国	6.27~7.16	ゴードン・コンフェランス, 不斉の化学反応とプロセスセミナー本会議出席及び有機合成化学に関する研究調査のため

所属官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
物理教授	山崎敏光	アメリカ合衆国	6.30～7. 5	第9回ニュートリノ'81国際会議出席のため

あなたです！
火事を出すのも
防ぐのも

編集後記

編集という程のこともししていないから、後記を書くのは気がひけるが、各方面の御協力で、ようやく本号を出せたので、ここで御礼を申し述べる。

なお、印刷上のミスが前号にあり御迷惑をかけたことをお詫びする。平川委員に交代して物理教室の矢崎紘一氏が新しく編集委員に、本年4月から就任された。

編集：

飯 高	茂 (数学)	内線	4053
矢 崎 紘	一 (物理)		4123
小 平 桂	一 (天文)		4258
露 木 孝	彦 (化学)		4357
尾 本 恵	市 (人類)		4482
